

## 緑の地球

# GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- 新たな課題に挑戦 ..... P 2  
●第4回会員総会のお知らせ ..... P 3  
●チコロナイの森の植物たち ..... P 6



アンズは水土流出を防ぎ、収入にもなるうえ、美しい花は毎年目を楽しませてくれる (撮影：橋本紘二)

GENに参加するには

- ☆会員・会報購読者になる
- ☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ☆ワーキングツアーに参加する
- ☆ビデオ『森よ、よみがえれ!』を見る
- ☆使用済みテレカ・オレカを集めて送る

etc. あなたのご参加を待っています!

1998・3

60

# 新たな課題に挑戦

## ～黄土高原における緑化協力

高見 邦雄 (GEN事務局長)

黄土高原における緑化協力活動も7年めにはいりました。ことしからは育苗・栽植技術の改善、人材育成などソフト面の協力が大きな課題になります。

そのために地球環境林センターの整備が必要です。昨年は30人の宿泊室と実験室を拡張し、一昨年までに建設した管理棟、温室、ビニールハウスなどとあわせてハード部分が整いましたので、ことしは内容の充実をはかります。

霊丘県に地球環境林センターの支所を、大同県の国営苗圃の一角に針葉樹育苗基地を建設することになりました。大同市は大阪府・京都府・兵庫県をあわせた面積があり、気象・土壌も複雑なので、各地の特徴をいかすためです。

菌根菌を活用してのマツの育苗は、昨年の実験で顕著な効果があったため、実用化にはいります。果樹についても現地の菌を試みます。

大部分のプロジェクトで、混植を徹底することになります。北部では、マツ2種類のあいだに樟条(マメ科の灌木)、沙棘(グミ科の灌木)、ポプラなどを混植し、南部では自生する各種の喬木灌木を活用します。あわせて霊丘支所に「太行山木本植物園」をつくり、現地に自生する28科65属91種を試験栽

培・馴化し、さらに外部から導入して、有望なものを全体に広げる計画です。

沙棘は沙漠化地域の緑化のために、中国でも注目され、実の大きいものなど改良種がつくられていますので、その導入もおこないます。

大同ではこのところ異常気象が連続しますので、数か所に気象観測ステーションを設け、また各県の气象台のデータの提供をうけて、解析をはじめることになりました。

また今春から、地球環境林センターで研修会が始まります。各県の青年を対象に、技術水準を高め、そのネットワーク化をすすめるためです。

このような活動が可能になったのも、昨年秋、緑色地球ネットワーク大同事務所が技術部が成立し、大同市林業局で41年間働いてきたベテランと新卒の技術者が就任したからです。彼らは全部のプロジェクを数回にわたって調査し、現地指導をつづけています。

日本の専門家にも、しばしば現地を訪れて、いろいろとアドバイスしてもらいます。

この活動は中国でも注目を集め、中華全国青年連合会が主催する「国際青年ボランティアキャンプ」が4月に、

私たちの協力地で開催されることになりそうです。

ワーキングツアーの派遣、中国からの緑化視察訪日団の招請(6月の予定が秋に延期)によるおたがいに顔のみえる協力の強化とあわせて、協力の実体も急速に充実していくでしょう。

## 張家口地震続報

### 小学校再建に協力します

1月10日正午前、中国河北省張家口市北部で地震が発生したとき、高見事務局長が震源から80kmの大同市天鎮県におり、さっそく被災地を見舞いました。そのレポートがテレビ・ラジオ・新聞などでも報道され、たくさんの人から義援金が送られてきました。

被害の重かった張北県では、132の小中学校で2,000教室が倒壊し、15,000人近い子どもが学校にいけなくなったようです。大同事務所をつうじて地元政府と相談して、小学校の再建に協力することにしました。

長年貯めつづけた500円玉貯金をそっくり寄付していただいたり、家族ぐるみや労働組合の有志などのご協力で、目標額の10万元(約160万円)にあと少しまで迫っています。みなさんのご協力をいただけると幸いです。同封の振替用紙でご送金いただければ幸いです。用途を明記してくださるようお願いいたします。

## 春の黄土高原ワーキングツアー 第2班ご希望の方お急ぎください

春の黄土高原ワーキングツアー、第1班はおかげさまでたくさんのご応募をいただき、準備をすすめているところです。4月16日から23日までの第2班もそろそろ締め切りですが、まだ人数に余裕があります。かなり暖かくなった春の黄土高原をゆっくり楽しむ良い機会です。お気軽にGEN事務所までお問い合わせください。

- 日程：4月16日(木)～23日(木)
- 費用：一般＝175,000円、学生＝165,000円(国際航空運賃、中国国内での交通費/食費/宿泊費、ビザ取得手数料、GEN会費1年分ふくむ)

※中国国際航空利用、関西国際空港発着 ※成田利用ご希望の方、北京または大同で合流ご希望の方はご相談ください。

## '98夏の黄土高原ワーキングツアー 予告

気が早いようですが、夏のワーキングツアーの予告です。今年の夏には、春と同様2つのツアーを実施する予定です。ひとつはいつもと同じく7月末ごろから10～11日間のもの。マツやアンズの新植といった作業や村の人たちとの交流、咲き乱れる高山植物もお楽しみいただけます。

もうひとつは7月に予定している1週間のツアーです。農協観光が募集する人たちといっしょに、井戸の通水式にたちあえるかもしれません。

次号で詳しい日程や費用をお知らせしますが、関心のある方は事務所までご連絡ください。詳細が決定的次第ご案内をお送りいたします。



## 第4回 緑の地球ネットワーク 会員総会のお知らせ

緑の地球ネットワーク第4回会員総会の日程が決まりました。NPO法案も可決の見通しですが、条例ができるまでに多少時間がかかると思われるので、今回の総会では法人化を具体的に討議することは予定していません。

会員のみなさんにはぜひご参加いただきたいですし、会員以外の方も、傍聴できます。傍聴ご希望の方はあらかじめGEN事務所までお知らせください。

また、この機会に新しく世話人になる人を募集しています。やってみようかな、と思う会員の方は、お気軽に事務所までお問い合わせください。もち

ろん、あわせて新しい会員も大募集しています。同封のリーフレットをご活用ください。

会員総会のあと、龍谷大学教授の中村尚司さんによる記念講演会を開きます。環境問題、経済不安...21世紀に山積する問題に立ち向かう人と人とのつながりをテーマに、興味深いお話が聞けると思います。ぜひご参加ください。  
**緑の地球ネットワーク第4回会員総会  
中村尚司さんの記念講演『共鳴しあう人間関係～21世紀の社会システム』**

●日時：6月6日（土）午後

●場所：大阪国際交流センター

※詳細は次号でお知らせいたします。

## 訪日団延期のお知らせ

6月によろやく第2回の訪日団を招請できるとはりきって、実行委員会にもたくさんの方にご参加いただいたのですが、残念ながら10月に延期になってしまいました。山西省・大同市で大規模な選挙が6月に実施されることになり、訪日団のメンバーもそれまで足止めになってしまったのです。

第1回の実行委員会に参加して下さった方や快く協力をひきうけて下さった方にお詫び申し上げるとともに、10月の訪日団の際にはまたご協力くださるようよろしくお願いいたします。

## ブックレット

『**黄砂の村をゆく**』刊行！  
ご利用ください

GEN世話人で会報にも『緑の中国〈歴史篇〉』を連載中の上田信さんが、岩波書店「へるめす」に掲載された原稿の一部に書き下ろしをくわえたものを、『黄砂の村をゆく～中国黄土高原の緑化にいどむNGO～』と題して1冊の小冊子にまとめました。黄土高原ワーキングツアーのようす、中国の歴史や伝説、日本での体験、天鎮県の農村にホームステイした経験をまじえて、黄土高原の緑化にとりくむとはどういうことかを考察しています。橋本紘二さんの写真をつかってビジュアル的にもわかりやすいものになりました。GENの活動の内容や意義を周囲の方に説明されるのにも好適です。ぜひ1冊お手元において、GENの活動を広げるためにご利用ください。

●『黄砂の村をゆく～中国黄土高原の緑化にいどむNGO～』上田信著・緑の地球ネットワーク発行・A5判56頁  
価格：1冊500円（郵送料別）、5冊以上の場合1冊400円。

## 新リーフレット完成 会員拡大にご活用ください

昨年夏のワーキングツアーに参加した大村真紀子さんにデザインしてもらって、新しいリーフレットを作りました。今回はモノクロ、シンプルで“しぶい”と好評をいただいています。写真は橋本紘二さんです。

この会報に同封しますので、6月の訪日団・会員総会にむけて、新しい会員をふやして会の活動をひろげるためにもご利用ください。

## 使用済みテレカ回収 これからもよろしく

使用済みカード類は97年4月から1年間で約125,00枚が集まりました。換金して1,077,31円となりました。すべて黄土高原緑化基金として現地に届けます。多くのみなさんのご協力に感謝します。個人・グループ・学校・企業など継続して取り組んでいただける所がふえてありがたく思っています。NTTによる買い取りは2月で終了しましたが、海外にコレクターの市場があ

りますので、テレカなど使用済みカードの回収は今後も継続していきます。引き続きご協力をお願いいたします。

## 書き損じはがきを 送ってください

郵便番号の7桁への変更にともない、古い50円のはがきを郵便番号7桁の新しいはがきに手数料無料で交換するサービスが郵便局で実施中です（3月31日まで）。みなさんのお手元に書き損じの年賀状などがのこっていましたら、GEN事務所まですぐにお送りください！この無料交換の期間がおわっても、書き損じはがきの回収はつづけますのでよろしく願います（古切手は集めていません）。新しいはがき、切手などに交換して通信につかわせていただきます。

また、この会報60号からみなさんへの封筒の宛名も7桁の郵便番号に移行作業中ですが、変更されていない方（特に京都の方）がおいででしたら、恐れ入りますがGEN事務所まで新しい郵便番号をお知らせくださればたすかります。

# 宇治市植物公園を訪れてみて

谷口 英子 (大学生)

2月15日の自然と親しむ会は、33人が参加、宇治市植物公園とその近くの2次林を立花先生にご案内いただいて散策を楽しみました。

最初から唐突であるが、断っておこう。私はとんと植物のことがわからない植物オンチである。けれどもオンチはオンチなりに自然が好きであり、木の葉のざわめきに心癒されるのである。このたび、宇治市植物公園をおとずれてみてあらためて思う。日本に住む人

びとはなんと幸せなんだろうか！ まだ、自然の息吹をそここに感じることが出来る。あなたが彼らに近づきたいと願いさえすれば。

GENのツアーに参加してはじめて、中国の、というより地球規模で深刻化している緑地面積の減少を実感することができたのだとつくづく感じる。きっと日本を出ずに、日本の植物園や、里山などを愛でているだけだったら、今ほど環境問題にこだわっていなかっただろう。日本の自然が申し分ない状態であるとはもちろん思っていない。しかし、立花先生のおっしゃるように、日本は「気候に恵まれた、肥沃な大地の国」

なのだ、と今回再確認したのだ。悲しいかな、われわれ人間といういきものは恵まれていけばいいほど、怠け者になり、傲慢になるという特性をもっている。貧すれば鈍するが真ならば、富すれば鈍する、もまた真なのであろう。日本では、切ったら植えればいい、がいまのところ通用するが、中国ではもはやそうはいかないのだ。切ったらもう何も生えないかもしれない。けれど、今日のため、明日のために切らずにはいられない。

地球の恩恵を享受できるはずの日本のわれわれがそれに気付かず大地を平気で踏みじり、一方では自然の恩恵に浴することのできない人びとによる壮絶な自然との戦いが続いている。

ああ、世の中って不公平だなあ。私にできることってなんだろう。地球と自分の接点を常に意識することかなあ？ 朝の太陽の光を感じ、新芽が萌えるのを気付こう。日本にいてできる環境保護とは？ まず日本のすばらしい自然の貴さを再確認することではないだろうか。



## GREENなんでも勉強会第2期 “よそ者”として 地域とかがわかること

フィールドワークやNGO活動、ボランティアを通じて私たちは自分が生活し、関わっている地域とはちがう地域の人びとやその生活と関わりをもつことになります。

調査、植林、援助活動...目的がなんであれ、そこにつちかわれる“つながり”の意味とは。そしてそれによって相手が、自分自身がどう変わってゆくのか。陝西省の農村で調査活動をつづける深尾葉子さんといっしょに考え、議論してみませんか。

- 日時：4月9日、5月14日、6月11日 (各第2木曜) 18時30分～20時30分
- 場所：GEN事務所 (JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅からすぐ)
- 講師：深尾葉子さん (大阪外国語大学助教授)
- 参加費：3回で2000円 (1回だけの場合は700円)

## 自然と親しむ会 次回予告

やっぱりちゃんとした落葉樹林を見なくちゃ、ということで今回は5月24日(日)に南比良を立花先生にご案内いただく予定です。詳しくは次号でお知らせいたします。スケジュールをあけておいてくださいね。

## KDDグリーンアースダイヤル 終了のお知らせ ～ありがとうございました

96年2月からはじめて、会社・団体をふくめてたくさんの方にご協力いただきましたKDDグリーンアースダイヤルが、この3月いっぱいまで残念ながら終了することになりました。KDDをつうじてかけた国際通話料の一部が緑化基金としてGENに寄付されるというとてもいいシステムで、現在までに340件のご登録をいただき、毎月3万円前後が緑化基金になっていました。これまでのみなさんのご協力に感謝いたします。

## メールアドレス 教えてください

職場や学校でE-MAILをお使いの方が増えていると思います。GENの各種イベントのご案内などは主に会報をつうじておこなっていますが、E-MAILだとタイムリーに情報が送れますし、急なニュースもカバーできます。そんなわけでE-MAILアドレスをおもちの方は、gentree@ma.kcom.ne.jpまたはHQB01706@niftyserve.or.jpでメールでお知らせください。

## ホームページが 引っ越しました

リニューアルしたホームページ、ご覧いただけましたでしょうか。たびたびの引っ越しで申し訳ないのですが、またURLが変わりました。当分の間は以前のURLからもリンクしていますが、パソコンに登録なさっている方は変更をお願いします。新URLは下記の通りです。  
<http://member.nifty.ne.jp/gentree/>

# 世界の森林と日本の森林 (その13)



立花 吉茂 (花園大学教授・GEN代表)

## ●導入と馴化

前回に引き続き、他国の樹種を導入して育てる実験のお話。

大阪市立大学付属植物園には日本の植物の樹林型以外にアメリカ区、オーストラリア区、ユーラシア区、アジア区があり、そこには大阪で育つ可能性のある植物が移入され、植えられている。苗を植えてからもう30年以上経っているので、育つものは育ち、枯れるものは枯れて、歯抜け状態になっている。比較的枯れずに育っているのは中国の植物が大半を占めるアジア区である。他の区も温度条件では育つ可能性があるのだが、降水量、湿度の違いから病虫害にやられたものが多いようだ。その点中国の東南部は日本とほとんど同じような降水量、湿度なので日本の照葉樹林と似た環境である。大阪は中国東南部に似て、世界の他の温帯地方に比べて病菌や害虫が多く、それだけ生態系が複雑なのだということができる。他国の植物が育つには、温度条件がほぼ等しいこと、雨量もあまり違わないこと、土壌条件も近似していることが挙げられる。しかし世界の温帯で

日本とまったく同じ雨量の場所は少ない。

気候的に似ているのはアメリカ合衆国東南部だが、そこには常緑樹はあっても種類が少なく、照葉樹林は成立していない。

## ●生きた杉の輸入

インド洋の南西部マダガスカルのすぐ東側にフランス海外県のレユニオンという島国がある。そこには、日本のスギが植林され、みごとに育っている。日本の造林樹種が海外で成功している唯一の例だろう。これには同国営林署の熱心な技術者の存在がある。日本に来てスギの面白さにひかれ、種子を導入して多数の苗をつくり、日本と同じ気温の高地に植えたのだ。レユニオンは南回帰線に近い熱帯だからだ。2000m以上の場所のみごとな成林があり、日本に帰ったような気がした。そして、農業試験場を訪ねてまた驚いた。熱帯、温帯の世界中の果物が標高別に全部そろっているのだ。責任者は「ないのは日本の柿だけだ」と言っていた。帰国後大量の柿の種子を送り届けたから、いまでは全部そろっていることだ

ろう。ここの成功は、営林署の人も農業試験場の人も非常に熱心であり、知識レベルも高く、植物愛好家であったことだと思う。「日本のようにハード面だけかためるんじゃなくて、ソフト面が大切なんだ」とつくづく考えさせられた。



レユニオンのスギ

## 緑の中国 歴史篇 17

上田 信 (立教大学教授)

『楚辞』に収められた「山鬼」を読むと、紀元前300年ころの長江流域で、人々が森林をどのように見ていたのかを窺い知ることができます。前回紹介した冒頭の句に続いて、つぎのように歌は展開していきます。

既含睇兮又宜笑 すでに睇を含みて  
また笑うによろし  
子慕予兮譚窈窕 子は予がよく窈窕  
たるを慕う  
乘赤豹兮從文狸 赤い豹に乗りて文  
狸を従え  
辛夷車兮結桂旗 辛夷の車に桂の旗

を結び  
被石蘭兮帶杜衡 石蘭をきて杜衡を  
帯とし  
折芳馨兮遺所思 芳馨を折り思うと  
ころを遺さんとす  
現代語訳するならば、「(山鬼は) 流し目に思いをこめ、口元に笑みを漂わせている。(山鬼は声をかける)『あなたは私が艶めかしいのを慕っていますね』と。(山鬼は) 赤いヒョウに乗り、まだら毛のヤマメコを従えて、コブシの車にニッケイの旗を結びつけている。ランを身につけカンアオイを帯とし、

かおる花を折り採って、思う人に送ろうとする」となるでしょうか。

ここまで読んでくると、山鬼はどうも女性と思われ、山の深い森のなかに住み、人間の男性とのあいだに情のやりとりがあることが分かってきます。山鬼は日本の「山の神」のような山林の神なんでしょうか。あるいは森林の神々と山麓に住む人々とのあいだを取り持つ巫女だったのでしょうか。ただはっきりとしていることは、蔓を幹に巻き付け、枝からは地衣類を垂らした樹木が茂る森、ヒョウやヤマメコが生息する森が、人々の生活領域に隣り合っていたということ。林床にはランなどが花を咲かせていたのでしょう。

そこにあった森は、一年じゅう青々とした照葉樹林であったと思われます。

# チコロナイの森の植物たち

武田 繁典 (チコロナイ部会担当世話人)

ナショナルトラスト「チコロナイ」の第1期計画で、3.4haの山林が取得できてから3年になります。この間、夏のワーキングツアーや子供キャンプ、春、秋のツアーなどで10回ほどチコロ

ナイの森に入りました。そこで、貝澤耕一さんに教わったことや、本で調べたりしたことをもとに、チコロナイの森にまつわる植物たちのことをまとめていきたいと思います。まちがいや内容に関するご要望がありましたら教えてください。

まず地形のようですが、国道で二風谷から南に向かってシケレベ沢の橋を渡った左手にチコロナイの案内板があります。そこから、町道を左手に入り、2kmほど行ったところにチコロナイの森があります。途中に私有地の林道があるので、入山希望者は必ず武田か貝澤耕一さんに相談してください。

チコロナイの森は、図のように東西に細長く、真中になだらかな尾根があり、その北側の谷の小川までと、南側の斜面の途中までになっています。尾根づたいにササを刈って小さな道をつけ、ピーク①からピーク⑧まで、さらに比較的平坦な下り坂を西に23まで、10m間隔で番号札をつけています。東側の林道から尾根を登るところに境界線があり、その東側は私有地でトドマツやカラマツが植林されています。

西側がチコロナイの森で、30年ほど前に皆伐してカラマツを植え、最初5年ほどは下草刈りなどの手入れをしていたがその後放置していたとのことでした。今は、大きいもので直径30cmほどになったカラマツがあちこちに少し残り、あとは自然に芽生えて大きくなった落葉広葉樹の雑木林になっています。地表は一面ササで覆われています。

ササの中や植林地をよく見ると、あちこちに直径1m位の大きなカツラの木の切り株があります。これがどのような歴史的な

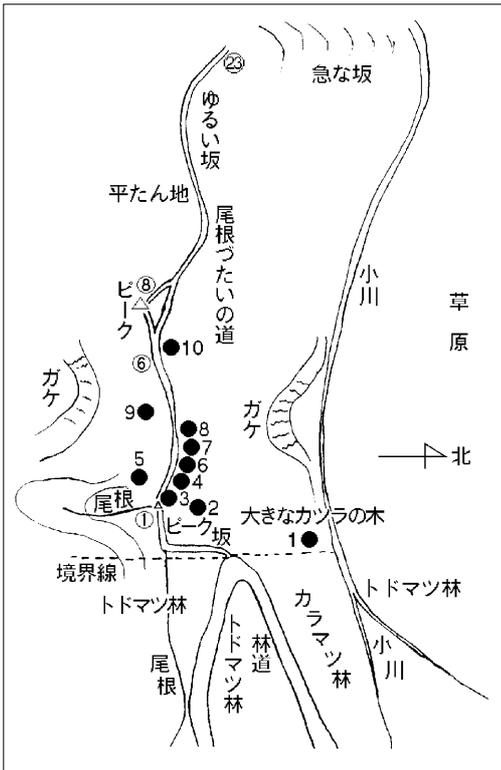
経過で伐採されたのか。切られる前は、きっと巨木の生い茂る原生林だったことが想像できます。敷地内の、小川と境界線の出合う所にそのような大きなカツラの木が1本だけ生き残っていました。

ワーキングツアーや子供キャンプで現地を訪れた人は、気に入った木、残したい木を一本選んで、10cm×20cmの白いアクリル板に自分の名前と植物名、そのアイヌ語名を書いて付けることにしています。もう50本ぐらいになって、にぎやかで楽しいです。

自分達がお金を出し合って、アイヌの人達と協力して山を買い、「アイヌ・シサム共に歩む森」として、人と自然が共生する森を再生し、活用し、後世に残していこうというのが「チコロナイの森」です。その中に、一本の「僕の木」、「私の木」を決めて、何年か後にまた会いに来て、無事に生きていたか、大きくなったかと喜び合うのもきっと楽しいでしょう。

今回は、大きなカツラと、ピーク①から西に向かって番号札⑥(60m)までに尾根道の両側にある10本の木を紹介いたします。図の中の1から10までの●のところに生えています。植物名は和名とカッコ内に別名、科名、それにアイヌ語の名前とカッコ内にそのローマ字表記とその意味を書きました。植物名は「原色日本植物図鑑木本編」(保育社)により、アイヌ語名は「萱野茂のアイヌ語辞典」(三省堂)によりしました。名札を付けた人の名前も書きました。

次回からも続けてチコロナイの森にまつわる木や草たちを紹介していきたいと思っています。どうかよろしく。



- 1 カツラ かつら科 ランコ (ranko) 97.8 杉田裕香
- 2 ミズナラ ぶな科 ペロ (pero) なら) 97.8 勝山明彦
- 3 ハリギリ (センノキ) うこぎ科 アユシニ (ay-us-ni とげの生える木) 96.8 武田繁典
- 4 ホウノキ もくれん科 プシニ (pus-ni はぜる木) 97.8 藤原正和
- 5 ミズキ みずき科 ウドカンニ (utukan-ni) 97.5 石原由理
- 6 エゾイタヤ かえで科 トペニ (tope-ni 乳液の木) 97.8 福元理恵
- 7 オオヤマザクラ (エヤマザクラ) ばら科 カリンパニ (karimpa-ni さくら皮の木) 96.8 石田礼子
- 8 アサダ かばのき科 セイエカパラ (sey-e-kapar) 97.5 平石清隆
- 9 ヤチダモ もくせい科 ピンニ (pinni) 97.5 佐藤奈美子
- 10 シナノキ しなのき科 ニペシニ (nipes-ni しなの皮の木) 96.8 松丸莊子



## ナショナルトラスト 『チコロナイ』現状報告

2月末までに、424人から第1期繰越しをいれて全部で4,754,734円が寄せられました。ありがとうございました。

第2期計画の目標は700万円です。この12月9日までに何とか目標を達成し、第1期で入手した山林と地続きの予定地が購入できるようにしたいものです。多くの方がたの積極的な参加を呼びかけます。緑の地球ネットワークの会員で第1期計画に寄付を寄せられた方、第2期計画の方も継続してよろしくお願いたします。

### 【連絡先】

緑の地球ネットワーク事務所

武田繁典 〒5469-0006大阪市東住吉区今川6-2-6 (TEL/FAX.06-704-7720)  
貝澤耕一 〒055-010北海道沙流郡平取町二風谷31-3 (TEL.01457-2-2089 FAX.01457-2-3991)  
郵便振替 00900-2-5202チコロナイ

## 月刊「チコロナイ通信」 購読ご案内

チコロナイ関係の現地宿泊研修会、学習会、アイヌ語講座、講演会などの行事予定、催し物案内、ミニニュース、連載「アイヌ語ひとくちメモ」、連載「リレー自己紹介&エッセイ」、連載「最近の新聞から」(アイヌ民族関係の記事一覧)などを載せた「チコロナイ通信」を毎月発行しています。郵送ご

希望の方は郵送料ともて1年間分1,200円を80円切手15枚で同封のうえ、武田繁典まで申し込んで下さい。現在の購読者は関西以外の方11人を合わせて44人です。

## 催し物のご案内

### アイヌ古式舞踊体験

- 日時：4月5日(日)、18日(土) 14時～16時
- 場所：高槻民舞の会練習会場 高槻センター街事業協同組合3Fホール (TEL.0726-85-0721)
- 参加費：1回500円

### 広尾正氏(帯広カムイトウウボポの会元会長)による アイヌ古式舞踊講習会

- 日時：4月25日(土) 18時～21時、26日(日) 10時～16時
  - 場所：茨木クリエイティブセンター2F 多目的ホール(2F)
  - 参加費：2日間で3,000円
- ※両方とも、問い合わせ、申し込みは 勝山明彦 (TEL.0726-27-5390) まで

### チコロナイアイヌ語講座

#### ～いやでもわかるアイヌ語～

3月はチコロナイ学習会特別企画のためアイヌ語講座はお休みです。次回(第3期第6回)は4月25日です。

## チコロナイ学習会で アイヌの踊りを楽しみました



第30回のチコロナイ学習会は2月28日、「アイヌの踊りと小学校での取り

組み」と題して、勝山明彦さんの指導で行われました。小学1年生のクラスで実際に指導した体験を聞き、その一部を教えていただきながら、皆で踊りました。バッタのしぐさをまねたバッタキウボポやマナイタサンケ(丸木舟の踊り)など4つを踊り、最後に平取のチャピヤック(アマツバメの踊り)で息をはずませ、汗を流しました。若い人から、あまり若くない人まで、きっと明日ぐらいに足腰がいたくなるだろうなあと言いながら、楽しいひとときを終わりました。

## 第29回 チコロナイ学習会

### 特別企画『松浦武四郎記念館と生家の見学、中本ムツ子さんの講演』

今月は特別企画として、三重県の松浦武四郎記念館を訪問、見学します。この日、三雲町が「武四郎まつり」を催し、中本ムツ子さんを招いて講演会をおこないます。中本ムツ子さんはチコロナイアイヌ語講座で使っているテキストの著者です。

- 日時：3月21日(土、春分の日)
- 集合：10時15分近鉄伊勢中川駅(近鉄上本町発8時50分特急、10時12分伊勢中川下車)。タクシーで講演会(10時30分～12時)会場「ハートフル三雲」へ。講演会後記念館、生家へ。帰りは16時10分伊勢中川発特急を利用します。特急券は予約が必要です。お早めに個人で最寄りの近鉄駅か旅行代理店で取ってください。

- 場所：松浦武四郎記念館(三重県一志郡三雲町大字小野江383 TEL.059856-68847)生家。
  - 内容：松浦武四郎記念館と生家の見学。中本ムツ子さんの講演
  - 案内：吉田淳一
  - 参加費：100円+カンパ。その他に昼食代、交通費(近鉄上本町～伊勢中川特急券込みで往復5,380円、タクシー一代1人1,000円ぐらい)が必要。
  - 問い合わせ・申し込み：武田繁典 (TEL.06-704-7720) まで
- ★初めての人も、今回だけの飛び入りも大歓迎です。



## GEN 関東ブランチ学習会

春のワーキングツアーを前に、ツアー参加者への説明会をかねて黄土高原での緑化協力について説明します。

- 日時：3月20日（金）16時～18時（説明会はその後になります）
- 場所：立教大学池袋キャンパス12号館
- 連絡先：上田信（TEL./FAX. 0423-23-5774）

## みどりの会桃山

伏見北堀公園を拠点に、京都市の公

園の環境保全に協力しようというボランティアです。

- 定例活動日：毎月第2日曜日、9時～14時30分ごろまで。雨天中止・順延、午後は自由参加。
- 集合場所：伏見北堀公園内体育館の裏のトイレの前
- 問い合わせ・申し込み：みどりの会 桃山事務局（〒612-8082京都市伏見区両替町11-247 TEL. 075-602-3770 FAX. 075-621-3966）に、作業の3日前までに必ずお申し込みを。

## ハッサク、ブントンは いかがですか

高知の田中さんから、春のたより、ハッサク、ブントンのご案内です。

- ハッサク（無農薬）  
10kg 3,000円

※数に限りがあります。

○出荷：3月から4月初旬まで。

- 土佐ブント（低農薬・有機栽培）

5kg 2L 10玉前後 3,000円

L 12玉前後 2,500円

M 15玉前後 2,000円

○出荷：2月10日ごろ～4月初旬まで。

○送料：630円（関西方面）。その他の地方はお問い合わせください。

★お申し込みは田中隆一さんまで。

〒781-7411高知県安芸郡東洋町甲浦  
TEL./FAX. 08872-9-2500

※売り上げの一部をGENに寄付していただいていますので、ご注文の際「GENの紹介」と添えてください。